

[取組みの方向性2] 未来へつなぐ資産の創造 ～未来の礎を築く～

[施策6] くまもとの誇りの回復と宝の継承

(1)現状と課題		(2)概要		(3)施策体系		(4)県民アンケート結果																									
<p>県民の誇りである熊本城や阿蘇神社をはじめとする文化財や、阿蘇の草原が熊本地震により被災し、県民の心も大きく傷つきました。また、有明海・八代海における赤潮等の発生や、一部地域での地下水の水位の低下等の課題があります。このような中、本県の自然、景観、地下水等を守る取組みが求められています。</p> <p>本県では、世界文化遺産登録や日本遺産認定、国際スポーツ大会の県内開催決定を契機に、歴史・文化・芸術・スポーツに対する県民の関心が高まっています。歴史・文化やスポーツなどを通じて、県民生活の豊かさを取り戻し、子供たちをはじめ県民の夢につなげる取組みが必要です。</p>		<p>熊本城や阿蘇神社をはじめとする文化財の修復や、阿蘇の草原再生に取り組むとともに、世界遺産や日本遺産などの歴史・文化の更なる活用や、地下水涵養、有明海・八代海の再生などに取り組めます。</p> <p>また、スポーツ施設の復旧を進め、復興の姿を県内プロスポーツチームを通じて発信するとともに、スポーツを通じた地域づくりや生涯スポーツの振興に取り組めます。</p>		<p>施策6-①</p> <p>熊本城をはじめとした歴史・文化の再生・継承 【担当部局：企画振興部・環境生活部・商工観光労働部・土木部・教育庁】</p>		<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>																									
★重要業績評価指標(KPI)		策定時	H28	H29	H30	目標値																									
施策6-①	i 文化財(国・県指定)の災害復旧事業の進捗率	—	36.0 <45.0%>			80.0 [% (累計)]																									
		分析	被災した文化財(国・県指定等)158件のうち、57件の復旧が完了した。																												
	ii 世界遺産登録資産への来訪者数(世界遺産暫定一覧表記載資産(崎津)を含む)	701,000 (H27)	451,478 <22.6%>			200万 [人(4年累計)]																									
	分析	熊本地震による世界遺産所在市の観光施設への来訪者数の減少に伴い、世界遺産登録資産への来訪者数も減少した。なお、H28年4～10月は前年度と比較して来訪者数が大幅に減少したが、以降は少しずつ回復している。																													
	iii 県立文化施設の入場者数	934,877 (H27)	540,563 <54.1%>			100万 [人(単年)]																									
	分析	熊本地震からの復旧までの県立劇場等の臨時休館や、県立美術館本館の改修工事等の影響により、入場者数は前年を大幅に下回っている。																													
施策6-②	i 阿蘇の草原における野焼き面積	16,500 (H27)	14,746 <89.4%>			16,500 [ha(単年)]																									
		分析	熊本地震によって、山腹崩壊、牧野道の寸断、牧野内の地割れ等が生じ、野焼きが休止された地域もあり、野焼き面積が減少した。																												
	ii 地下水涵養量の増加	2,432 (H27)	1,177 <33.6%>			3,500(H30) [万㎡(単年)]																									
	分析	熊本地震により農地等が被災したため、白川中流域水田湛水事業が前年度の1,568万㎡から393万㎡に減少したほか、益城町での冬期湛水も見送られたことなどから涵養量が減少した。																													
	iii 景観アドバイザーを活用した景観形成活動・事業の数	1 (H27)	1 <10.0%>			10 [件(単年)]																									
	分析	熊本地震の対応を優先し、景観アドバイザー制度の積極的な活用についての関係機関への働きかけ等が十分にできなかったこと等により、前年並みの実績にとどまった。																													
施策6-③	i 被災したスポーツ施設の災害復旧事業の進捗率	—	23.6 <23.6%>			100(H30) [% (3年累計)]																									
		分析	被災したスポーツ施設の災害査定を完了させ、復旧対象55件のうち、31件に着手し、うち13件の工事が完了した。																												
	ii 総合型地域スポーツクラブで活動しているクラブ員の数	16,475 (H27)	14,857 <82.5%>			18,000 [人(単年)]																									
	分析	熊本地震により、多くの体育施設が被災し、利用ができない状態となったことにより、施設を利用するクラブ員の数も減少した。																													
				<p>施策6-②</p> <p>阿蘇の草原など自然・景観の再生・継承 【担当部局：企画振興部・環境生活部・商工観光労働部・農林水産部・土木部・企業局】</p>		<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>																									
				<p>施策6-③</p> <p>スポーツを通じた熊本の誇りの継承と発信 【担当部局：企画振興部・教育庁】</p>		<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>																									
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>25</td> <td>436,179千円</td> <td>H29</td> <td>24</td> <td>1,961,228千円</td> </tr> </tbody> </table>		H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H28	25	436,179千円	H29	24	1,961,228千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>34</td> <td>3,257,296千円</td> <td>H29</td> <td>37</td> <td>10,051,972千円</td> </tr> </tbody> </table>		H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H28	34	3,257,296千円	H29	37	10,051,972千円
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																										
H28	25	436,179千円	H29	24	1,961,228千円																										
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																										
H28	34	3,257,296千円	H29	37	10,051,972千円																										
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>5</td> <td>330,533千円</td> <td>H29</td> <td>5</td> <td>673,941千円</td> </tr> </tbody> </table>		H	事業数	決算額	H	事業数	予算額	H28	5	330,533千円	H29	5	673,941千円														
H	事業数	決算額	H	事業数	予算額																										
H28	5	330,533千円	H29	5	673,941千円																										

【施策6】 くまもとの誇りの回復と宝の継承

No. (5)平成28年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)当該年度を含む今後の方向性
<p>施策6-1</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本城や阿蘇神社をはじめとした被災文化財について国・市町村等と連携して復旧を推進。文化財復興支援としてH28年度末までに民間等から約27億円の寄附 熊本城の復旧に向けて、国・県・熊本市による検討会議等において、復旧基本方針を策定。旅行会社等に復元過程を活用したツアーの造成を提案 「八代妙見祭神幸行事」を含む「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録。また、夏目漱石記念年全国オープニング式典などを通じて熊本の文化の魅力を発信 これまで認定に向けて取り組んできた、菊池川流域の「米作り、二千年にわたる大地の記憶」が日本遺産に認定(H29年4月) 「天草」を含む名称に崎津集落を含む世界文化遺産候補名が変更されるとともに、再度の国推薦を受け、ユネスコへの推薦書提出を実現【再掲】 くまもとアートボリスの伊東豊雄コミッショナーのもと配置や機能を工夫した応急仮設住宅4,303戸とみんなの家84棟を整備。若手芸術家6名の海外チャレンジを支援 熊本の各地域の手しごと(工芸、芸能、食)について、ホームページやフェイスブックにより情報発信 応急復旧により県立劇場及び県立美術館を再開。被災者のこころの復興に資するため、学校等に芸術家を派遣する「アートキャラバンくまもと」を146回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 被災文化財の早期復旧に向けて、国の支援に加え民間等からの寄附など、継続した支援が必要 熊本市と連携した熊本城復旧の推進と復旧過程の観光への活用が必要。旅行会社等への提案には、復元過程の把握と安全の確保が必要 「八代妙見祭」の魅力の更なる磨き上げと情報発信が必要。熊本の文化の魅力発信の効果の最大化 鞠智城跡を含めた菊池川流域の米作りの歴史や相良700年が生んだ保守と進取の文化など、日本遺産を活かした地域活性化の取り組みが必要 イコモスによる現地調査への確実な対応、世界文化遺産登録を見据えた周知啓発・機運醸成が必要【再掲】 アートボリスのこれまでの成果と課題を、災害公営住宅整備等にもつなげていくことが必要。海外チャレンジ支援制度の周知啓発の強化が必要 くまもと手仕事ごよみ推進事業の認知度が低い状況にあり、伝統的な手仕事文化の継承のためには、更なる広報・啓発が必要 県立劇場及び県立美術館の早期本格復旧が課題。「アートキャラバンくまもと」について質の高い事業展開の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等と連携して早期復旧への取組みを推進。国に財政支援継続を求めるとともに、県内外を問わず広く寄附を呼びかけ、復旧を推進 H29年度の熊本市による「熊本城復旧計画」策定の取組み等を支援。復元過程を活用したツアーの造成や教育旅行の学習素材として誘致セールスを実施 八代市の「歴史文化基本構想」策定等の取組みを支援。広報ツール等の作成や東京キャラバンの実施等により、熊本の文化を発信 関係市町村等と連携して、日本遺産を活かし、さらに、八代妙見祭やNHK大河ドラマ“いだてん”など地域の他の文化とも連携した地域活性化の取組みを支援 H30年の世界文化遺産登録実現に向けて取り組むとともに、キリシタン関連遺産のストーリー性のある周遊ルートを開発【再掲】 市町村等と連携し、アートボリスの成果等を踏まえた災害公営住宅の整備等を推進。海外チャレンジについては、応募が少ない分野を中心に周知啓発の強化 手仕事品の企業における活用事例を取材・紹介する「くまもと手しごと応援！企業」登録制度等により更なる普及を促進 H29年度に県立劇場及び県立美術館の本格復旧工事を完了。被災者のこころの復興に資する「くまもとアートキャラバン」を市町村の文化施設等と連携して継続
<p>施策6-2</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災した阿蘇山上給水施設について給水車による応急対応と新たな給水施設を設計。牧野・牧道等の復旧やボランティア等野焼きの支え手確保等を実施 野草堆肥活用事例集を阿蘇地域の農家等1,500名超へ周知し、草資源の効果的な利活用の取組みを推進。県外都市部でイベントを行い、世界農業遺産としての阿蘇をPR 訪日外国人来訪者数140万人(倍増)を目指し「阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム2020」を策定。トレッキングルートの設定やブランド力を高める宿泊施設の誘致などを検討 水田湛水面積を地震被害の大きかった地区以外で拡大。また、フォーラム等による情報発信や、熊本地震に係る地下水利用緊急アンケートを実施 くまもとグリーン農業応援宣言者数が、H28年度で2,648名増加し、18,408名となるなどグリーン農業を促進する県民運動を展開 有明海及び八代海等の再生に向け、森・里・川・海にわたる総合的な施策を特別措置法に基づく県計画に沿って推進。関係省庁に抜本的な再生方策の検討・実施等を要望 環境教育のため、県内小学生を中心に32,400名が環境センターに来館。「エコアくまもと」で循環型社会形成に寄与する教育プログラムを実施し、2,000名以上が来訪 メガソーラーの立地協定を2件締結し、中小水力発電1件が発電開始。県営の水力発電所の発電設備更新に向け、発電機の効率向上のための模型試験等を実施 計画的で秩序ある土地利用を推進するため熊本市計画区域における県指針を改定。これを受け、合志市及び嘉島町において土地利用方針を策定するなど基準改定 沿道景観等の魅力化を図るため、国際スポーツ大会を見据え、“おもてなしグリーンプロジェクト”を創設し、沿道景観や緑化環境等を重視した植栽の改善に着手 	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇山上への観光客回復に向け、給水施設をはじめとする自然公園施設の早期復旧が必要。牧道に大きな被害が生じ、輪地切り作業に支障 野草堆肥利活用システムの構築には、野草の安定的供給や野草堆肥利用促進及び認知度向上が必要 アウトドア企業と連携した阿蘇ならではのトレッキングルートの設定や魅力あるアクティビティの確保、宿泊施設の誘致が必要 水田湛水等による更なる涵養量の確保・増加が必要。「水の国くまもと」の認知度の向上や災害時の地下水利用についての周知が課題 応援宣言者数の増加が鈍化。地下水の水質保全には、畜産地帯の堆肥の耕種地帯における積極的な利用が必要 有用二枚貝をはじめとする漁獲量が依然として低迷するなど、引き続き、再生に向けた取組みが必要な状況 環境センターにおける中学生以上を対象とした環境教育の充実が必要。「エコアくまもと」で実施する環境教育の充実が必要 震災復旧に取り組む中小企業等への省エネ設備導入促進が必要。発電設備更新の現地工事に向けた関係機関との調整等の計画的な実施 地域の特徴ある景観を保全・継承しつつ、既存集落の維持・活性化等を図るためには、市町村と連携した取組みが必要 良好な景観を形成するためには、限られた予算を効果的に活用し、継続的かつ計画的な取組みを進めることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> H29年度に新たな給水施設等整備を完了。野焼き支え手の確保や牧野・牧道等の復旧に取り組み、阿蘇の草原再生を推進 世界農業遺産認定をきっかけとした農産物の付加価値向上等の経済活動につなげるため、野草堆肥の利活用システム構築等具体的な取組みを推進 ナショナルパークとしてふさわしい阿蘇の景観の再生、自然と調和したアクティビティの開発、モンベル等と連携したトレッキングルートマップの作成や宿泊施設の誘致等を実施 地下水を未来につなぐため湛水事業や硝酸性窒素対策に取り組む。水の魅力の情報発信、水環境教育に取り組むほか、災害時の井戸活用などを促進 「地下水と土を育む農業推進条例」の理解と関心を高めるため啓発活動を継続。また、堆肥広域流通量の拡大を目指す 県計画に沿った総合的な施策を実施するとともに、関係省庁に対し、具体的な再生手順の提示や抜本的な対策等の実施を求めていく センターの展示を、幅広い世代が学習できる内容に見直すとともに、「エコアくまもと」が県民の生活と経済活動を支える最終処分場として学習できることをPR 中小水力、地熱等の再エネや、中小企業等への省エネ施設の導入を支援。また、老朽化した水力発電所をリニューアルし、安定した電力供給に資するよう発電機製作、関連工事等に着手 市町村と連携して計画的で秩序ある土地利用を推進 H28～31年度までの事業であるため、計画的に事業を実施し、“おもてなしグリーンプロジェクト”を展開
<p>施策6-3</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内プロスポーツチームのホームスタジアム等が被災した中、関係者等と調整を図り、各チームの要望に沿った試合再開を実現。H30年のプロ野球オールスターゲームの熊本開催が決定 総合型地域スポーツクラブの育成支援のため、未設置市町村を中心に育成訪問を実施。また、地域スポーツの指導者等の資質向上のため研修会を開催し、340名が参加 被災した藤崎台県営野球場及び熊本武道館の復旧の取組みを進め、両施設の利用を一部再開 	<ul style="list-style-type: none"> 県内プロスポーツチームの活躍を通じた復旧・復興のメッセージが県内外に広く伝わるよう、マスコミへの情報提供を含めたPR方法の検討が必要 現在、4市町村が総合型地域スポーツクラブ未設置であり、また、自立的な運営が困難なクラブも存在 熊本地震の際、スポーツ施設が防災拠点施設としての役割を果たしたことを踏まえ、防災機能面を含めた施設のあり方の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 県内プロスポーツチームのアウェイ戦を含めた活躍や、オールスターゲーム熊本開催を通じて、復旧・復興の姿を県内外に発信 総合型地域スポーツクラブが未設置の市町村や自立的な運営が困難なクラブに対し、運営ノウハウを提供し、県内全域での総合型地域スポーツクラブの育成を実現 H29年度中に藤崎台県営野球場及び熊本武道館の復旧を完了。また、老朽化したスポーツ施設の課題整理を行うとともに、あり方について検討